胸腔鏡下またはロボット支援下肺悪性腫瘍手術における
胸部傍脊椎ブロックと浅前鋸筋面ブロック・肋間神経ブロック併用法の
術後鎮痛効果の比較：後ろ向き観察研究

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡ください。

研究の目的と方法

本研究は肺がんなどの肺悪性腫瘍に対して，胸腔鏡下手術またはロボット支援下手術を受けた患者さんの術後の痛みについて調べる研究です。これらの手術は体への負担が少ない方法ではありますが，手術後には傷の痛み，肋骨の間を走る神経への刺激，胸の管（胸腔ドレーン）による痛み，咳や深呼吸をしたときの痛みが生じることがあります。術後の痛みが強いと深呼吸や咳がしにくくなり，回復や離床に影響する可能性があります。本研究では術後の痛みを和らげるために行われた 2 つの神経ブロック，すなわち背中側から行う「胸部傍脊椎ブロック」と，胸の横の筋肉の近くに行う「浅前鋸筋面ブロック」に「肋間神経ブロック」を組み合わせた方法を比較します。痛みの強さは 0〜10 点で表す NRS を用い，病棟帰室直後，術後 6 時間・12 時間・24 時間・48 時間・72 時間の変化を調べ，どちらの方法が術後の痛みの経過に違いをもたらすかを検討します。

診療を通じてすでに得られた情報を使用するため，この研究のために新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2023 年 4 月 1 日〜2026 年 9 月 30 日に当院で胸腔鏡下，またはロボット支援下肺悪性腫瘍手術を受けられた方

使用する試料・情報

年齢・性別・身長・体重・術前採血検査データ・呼吸機能検査データ・既往歴・喫煙歴・手術術式・麻酔法・末梢神経ブロックの種別・手術時間・麻酔時間・術中バランス・術中使用薬剤・術後痛みの評価：NRS（帰室直後・6・12・24・48・72 時間後・初回外来時）・術後胸腔ドレーン留置時間・術後鎮痛剤使用状況・術後せん妄の有無など
使用開始予定日：2026 年 10 月 13 日

研究予定期間

2026 年 10 月 13 日〜2027 年 12 月 31 日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。氏名や患者 ID などの個人を特定できる情報を削除し、研究用 ID を付して管理します。患者 ID と研究用 ID の対応表は適切に管理し、外部に漏れないよう取り扱います。研究成果を学会等で発表する予定ですが、個人が特定されることはありません。
［研究の情報管理責任者］　　麻酔科　甲谷太一
［当院の個人情報管理責任者］　　院長　中尾浩一

研究への協力ついて

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止するとともに、収集した情報等も可能な限り削除します。既に研究成果の公表後などで削除が困難な場合は、その旨をご説明します。本研究への協力は患者さんの治療とは関係がなく、ご協力いただけない場合も不利益が生じることはありません。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先	済生会熊本病院　麻酔科　甲谷太一 住所：熊本市南区近見 5 丁目 3 番 1 号　電話：096-351-8000（代表）